

研究・調査報告書

| | |
|--|---------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 109 | 独立行政法人酒類総合研究所 |
| 題名 (原題/訳) | |
| <p style="text-align: center;">Associations between Cardiovascular Risk Factors and Carotid Atherosclerosis in Middle-aged Japanese Men with Multiple Risk Factors</p> <p>複数の危険因子を持つ中年日本人男性における心血管危険因子とアテローム性頸動脈硬化症の関係</p> | |
| 執筆者 | |
| <p>KIRII Kyoko, YAMAGISHI Kazumasa, TANAKA Shigemi, TANAKA Shigemi, ISO Hiroyasu, SAKURAI Susumu, TANIGAWA Takeshi</p> | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Ind Health Vol.46 No.6 Page.607-612 (2008) | |
| キーワード | |
| 心血管危険因子、アテローム性頸動脈硬化症、生活習慣 | |
| 要 旨 | |
| <p>複数の危険因子を持つ日本人中年男性における心血管危険因子とアテローム性頸動脈硬化症有病率の関係を明らかにするため、スクリーニング調査中に次の全ての因子の存在に基づいて36-60歳の110人の日本人男性を集めた:1)ボディーマスインデックス(BMI) $\geq 25\text{kg/m}^2$; 2)収縮期血圧(SBP) $\geq 140\text{mmHg}$ かつ/または拡張期血圧 $\geq 90\text{mmHg}$; 3)血清トリグリセリド (TG)量 $\geq 150\text{mg/dl}$ かつ/または総コレステロール(T-Chol)量 $\geq 220\text{mg/dl}$ と高密度リポ蛋白質コレステロール(HDL-C)量 $< 40\text{mg/dl}$; 4)空腹時血糖値 $\geq 110\text{mg/dl}$ かつ/またはヘモグロビン A1C $\geq 5.6\%$。年齢と心血管危険因子で補正後、HDL-Cの1-SD増加に関するアテローム性頸動脈硬化症のオッズ比は0.4 (95%信頼区間: 0.2-0.9)であった。高血圧進行の指標である降圧剤治療に関するボーダーラインは多変量補正後、オッズ比2.7 (95%信頼区間: 1.0-7.4)であった。他の危険因子であるBMI、SBP、T-Chol、TG、糖尿病、喫煙および飲酒状態はアテローム性頸動脈硬化症と有意な相関を示さなかった。以上から、低HDL-Cと高血圧の進行は複数の危険因子を持つ中年の日本人男性におけるアテローム性頸動脈硬化症と有意な相関があることがわかった。</p> | |